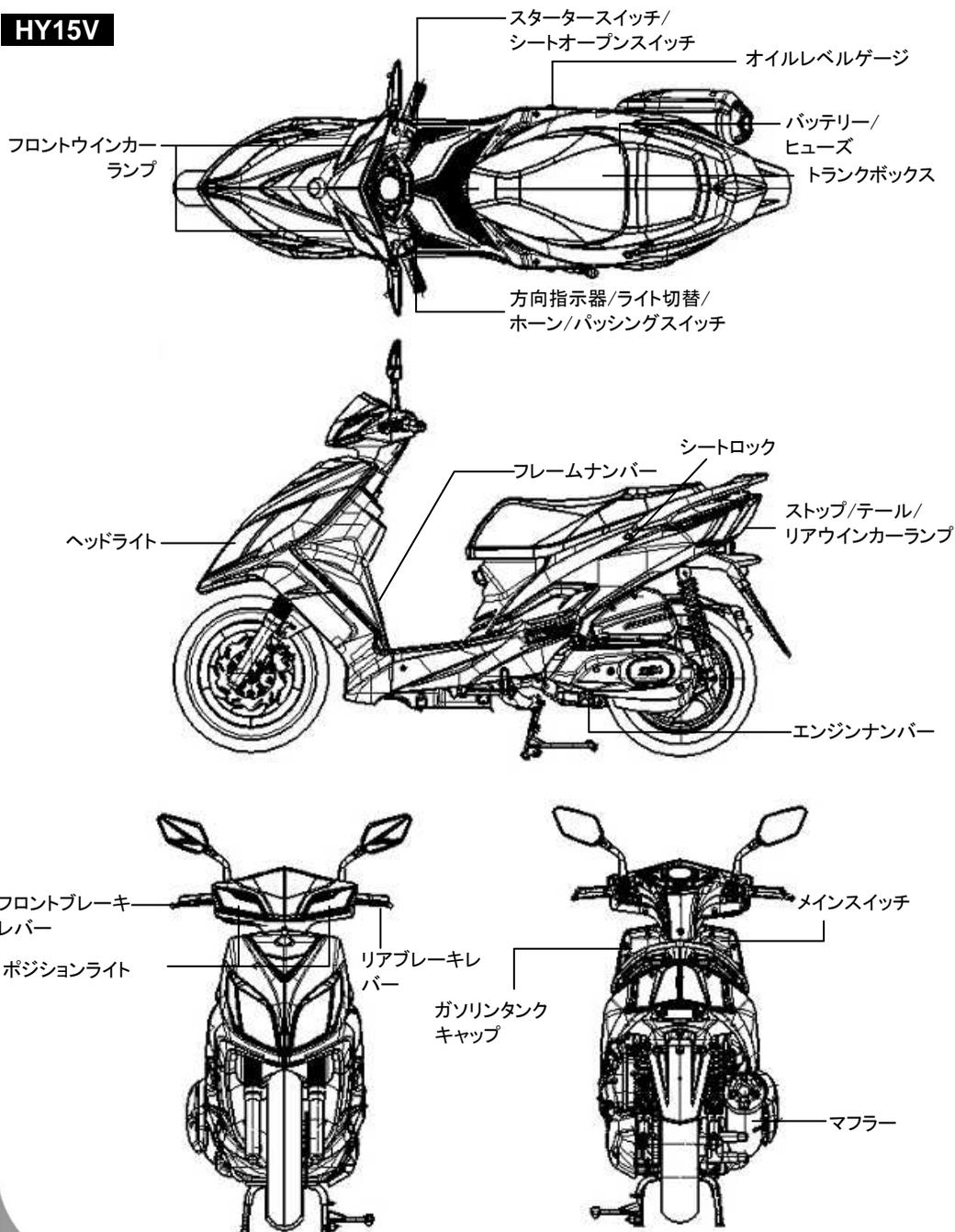


1. 内容	1
2. SYM 車の保証	3
3. メンテナンスレコード	4
定期点検整備の記録	7
その他 臨時整備の実施記録	7
油脂液類・消耗品の交換記録	8
SYM からのおすすめ点検整備記録	9
4. コントロールロケーション	10
5. ご乗車の前に	11
環境汚染防止のために以下の事にご注意下さい	11
純正スペアパーツの使用	11
安全運転	12
ドライビング	12
6. 各種機能の使い方	15
メーター	15
メインスイッチの操作	18
点火カットスイッチ	18
各種スイッチの使い方	19
ガソリタンクキャップ	20
シートロック	20
トランクボックス	21
ヘルメットフック	21
ブレーキ	21
リアショックアブソーバーの調整	21
調整可能式後ショックアブソーバー	21
エンジンを起動する要領と注意事項	22
正しい走り方	23
スロットルコントロール	23
車両の停止及び駐車	23

7. 乗車前の点検とメンテナンス	24
日常の点検	24
エンジンオイルの点検と交換	24
ディスクブレーキの点検	26
スロットルバルブのクリアランス調整	27
タイヤの点検	27
ステアリングハンドル/ショックアブソーバーの点検	28
バッテリーの点検とメンテナンス	28
ヒューズの点検と交換	29
ヘッドライト及びテールライトの点検	29
ブレーキライトの点検	29
方向指示器とホーンの点検	29
ガソリン漏れの点検	30
車体各部の給脂状態の点検	30
点火プラグの点検	30
エアクリーナーの点検	30
8. こんなときは	31
エンジンが始動できない時	31
9. 排気ガスの減少とガソリンの節約	32
10. 排気ガス異常の原因	33
11. 定期点検スケジュール	34
12. 諸元表	35
13. あとがき	36

HY15V



お買い上げいただきありがとうございます。

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。
新車の場合、最初の 300Km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車両をお持ち込みのうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000Km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

以下の事にご注意下さい

1. ガソリンはレギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。
 2. エンジンオイルは SAE 10W-40 API SJ または同等以上のエンジンオイルをご使用下さい。
 3. 定期メンテナンススケジュールにしたがって、定期的なメンテナンスを受けて下さい。
 4. 環境汚染防止のためにも、排気システムの改造は絶対にしないで下さい。
 5. 注意事項: 点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス制御システムの正常な作動に関係しています。
 6. エンジンがうまく作動しない時は、SYM 特約店に車両をお持ち込みになり点検を依頼して下さい。
- **必ず無鉛レギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。**

純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はおもとの設計が要求するものに適合する必要があります。“SYM 純正パーツ”はお乗りいただいている車両と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通じて生産される“SYM 純正パーツ”を“SYM 特約店”からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。また、トラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

- あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるように“SYM 純正スペアパーツ”を使用しましょう。

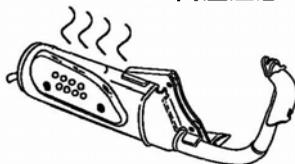
安全運転

走行時にはリラックスして、運転に適切な服装であることが重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般的に、多くの人は新車購入時にはとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを起こしやすくなります。

忘れないで下さい

- ヘルメットは必ず着用して下さい。
- 走行中は携帯電話を使用しないで下さい
- 制限速度を守って下さい。
- 定期点検とメンテナンスを実施して下さい。

高温注意！！



△ 警告！！

- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーで火傷をしないように必ず後部乗員がペダルに足を置くことを確認して下さい。
- 二人乗りする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いて下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。他の人がマフラーで火傷をしないように車両を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時は火傷をしないようにくれぐれも注意して下さい。

ドライビング

- 走行に当たっては、身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応ができるように常に心がけて乗りましょう。運転者の姿勢は安全運転に大きく影響します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られやすくなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。

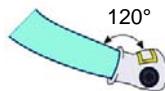
正しい姿勢



誤った姿勢



グリップの内側より指1本分開ける



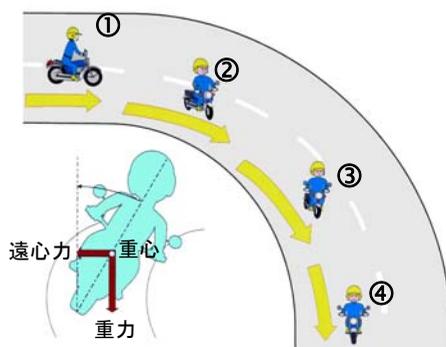
腕の角度 120°

カーブ走行時のポイント

- カーブを曲がる時には、運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車体を傾けないと不安定になります。

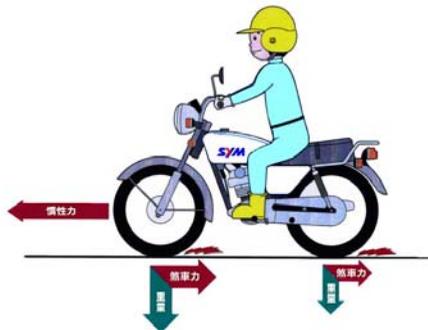
カーブ走行要領：

- ①カーブ手前でしっかり減速する。
- ②カーブ走行中は速度を一定に保つ。
- ③カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう。
- ④カーブを出た後は前後の安全を確認してから加速しましょう。



ブレーキの要領

- ブレーキをかける時は、前後輪ブレーキを同時にかけましょう。二輪車の性格上、片方だけかけると、不安定になり転倒しやすくなります。車体をまっすぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。タイヤがロックされます。



- でこぼこ道、未舗装道路、路面変化の激しい山道等では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

△ 注意！！

- 布切れ等燃えやすい物をボディカバーとエンジン間に置いたりしないで下さい。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車両を傷めます。
- フロントボックスに荷物を積み過ぎないで下さい。ハンドル操作に影響を及ぼします。
- 荷物がある時と無い時ではハンドルに掛かる感覚が異なります。荷物の積み過ぎはハンドルをふらつかせ安定走行に影響します。特に過剰な荷物は載せないで下さい。
- 車両改造は構造やパフォーマンスに影響があります。結果的に車両の寿命を短くする事になります。また、改造自体違法行為です。車両改造をしないように注意しましょう。

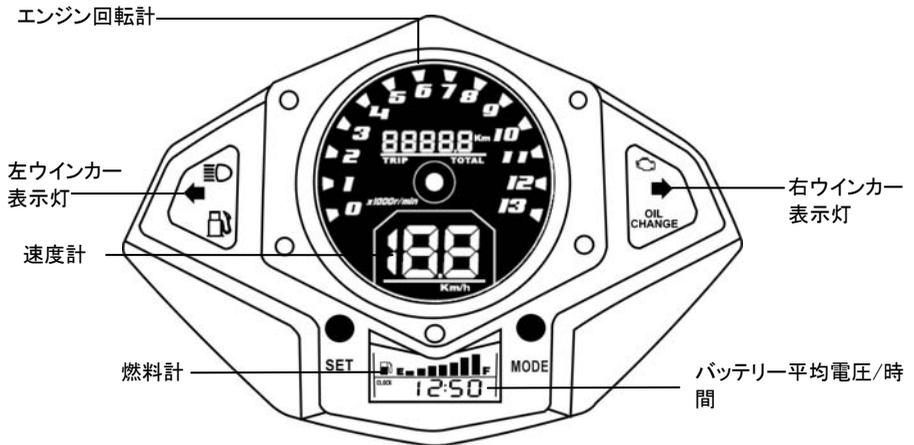
下記は SYM NEW FIGHTER150 シリーズの基本操作です。各モデル・仕様によって異なる場合がございます。

メーター

速度表示:



エンジン回転数表示:



速度表示/エンジン回転数表示

運転速度を表示します。速度単位:キロ/時間。

電圧表示状態で“MODE” ボタンを2秒以上押し続けると、速度表示/エンジン回転数表示を切り替えられます。

走行メーター

走行距離の累積数を表示します。距離単位はキロです。

ハイビーム指示ランプ

ヘッドライトがハイビームを使っているとき、ハイビーム指示ランプが光ります。

ウインカーランプ

ウインカーを操作した時に、右または左の表示方向を点滅させて表示します。

燃料計

メインスイッチがオフの位置の時、燃料計は表示されません。

メインスイッチを“ON”の位置に回して、ガソリンメーターが“E”位置を表示する時、すぐに無鉛ガソリンを補充してください。

EFi チェックランプ

インジェクションシステムの状況が表示されます。インジェクションシステムに何らかの問題があるときは直ちに警告灯が点滅します。

エンジンオイル交換指示ランプ

エンジンエンジンオイル交換指示ランプは、エンジンオイル交換時間を指示するためのものです。

車両走行距離が約1,000キロのとき、指示ランプが光り、エンジンオイルを補充あるいは交換しなければならないことを示します。

エンジンオイル交換後、メインスイッチ電源をオンにして、ODO モードで、“SET” ボタンを長押し(2秒以上)すると、指示ランプが消えます。

走行距離設定

1. オドメーターとトリップメーターを切り替えられます。
2. メインスイッチを“ON”にした後、一般表示モードで、“MODE” ボタンを1秒押しすと、オドメーター(TOTAL)、トリップメーター(TRIP)の切換ができます。
3. トリップメーターモードの時、“SET” ボタンを長押しすると、トリップメーターの走行距離をクリアできます。

時間設定

1. 12時間制時間を表示します。
2. メインスイッチを“ON”にした後、時計は12時間制の時間と分を表示します。
3. 正常モードで、車両静止時、“MODE” ボタンを長押しする(2秒以上)と、“時間設定モード”に入ります。この時“MODE” ボタンを1秒短く押しすと、設定モード(時間→分十桁→分一桁)を切り替えられます。“SET” ボタンを1回短く押しすと、数字が1増え、設定モードで、“MODE” ボタンを長く押し(2秒以上)と設定モードを終了します。

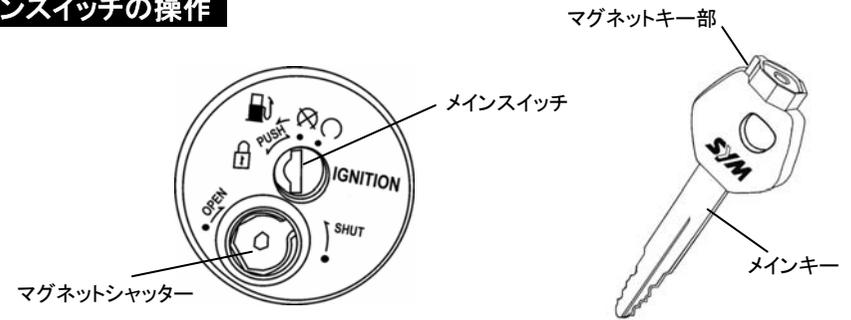
電圧表示

1. バッテリーの平均電圧を表示します。
2. CLOCK 表示状態で“SET”を 0.5 秒押すと、電圧表示に切り替えられます。

注意！！

- メインスイッチを“ON”の位置に回し、すべての照明システムスイッチをオフにして、エンジン始動前の電圧表示がもし 10.0V 以下なら、販売業者あるいはサービスセンターにバッテリーを検査してもらってください。
- 車両運転中、電圧表示がもし 10.0V 以下あるいは 16.0V 以上ならば、すぐに SYM 販売業者あるいはサービスセンターに検査してもらってください。

メインスイッチの操作



マグネットキーシャッター

- 磁石式の鍵で、マグネットキー部をマグネットキーシャッターにセットし、左に回すとキー穴のシャッターが閉じます。
- メインスイッチを使用する時は右に回すとシャッターが開きます。



“スタート”位置

- この位置はエンジンが始動できます。
- キーは抜き取る事はできません。



“ストップ”位置

- この位置はエンジンを始動できず、エンジンを切るのに使えます。
- この位置はキーを抜けます。



“燃料タンクキャップオープン”位置

- この位置は燃料タンクキャップが開きます。キーを“”位置から、直接この位置へ回して下さい。開いた後“”位置に戻ります。

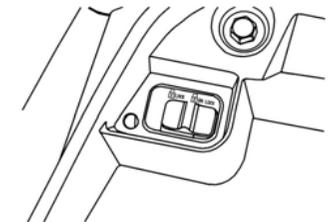


“ハンドルロック”位置

- キーを押した後この位置に回すと、ハンドルがロックできます。キーを抜く事ができます。ロックを解除する時は、キーをこの位置から、直接“”位置に回して下さい。

点火カットスイッチ

- このスイッチはトランクボックス内にあるスイッチを“ ON”位置にするとセットされます。
- エンジンを始動する前に“ OFF”位置に戻してからエンジンを始動して下さい。
- スイッチをセットした後はシートロックを確実に閉めて下さい。



スイッチの使い方

ハイビーム/ロービーム切替スイッチ

ウインカースイッチ

ホーンスイッチ

シートオープンスイッチ

スタートスイッチ

スタートスイッチ

- Ⓜ スターターモーターでエンジンを始動する時に、このスイッチを使用します。メインスイッチを“ON”位置に回し、ブレーキレバーを握った状態でこのスイッチを押すと、エンジンが始動します。

⚠ 注意！！

- 始動後はすぐにスイッチから手を離して下さい。スイッチを押し続けると故障の原因になります。
- フロントカリアのブレーキをかけていないと始動しない安全機構になっています。

ハイビーム、ロービーム切替スイッチ / シートオープンスイッチ

- ☰ ハイビームランプ
- ☷ ロービームランプ。市街地、車とすれ違う時はロービームランプを使用して下さい。
- ☞ シートオープンスイッチを押した時、シートロックが解除されます。

ウインカースイッチ

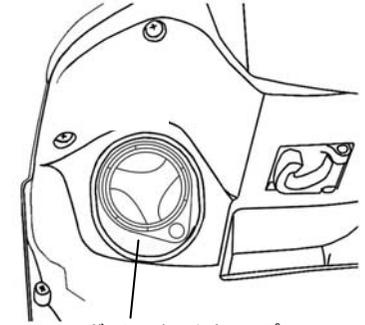
- メインスイッチを“ON”位置に回して、ウインカースイッチを右又は左にスライドさせると作動します。解除する時はウインカースイッチを押すと消灯します。
- ☞ 右ウインカーライト点滅は右に曲がる事を表します。
- ☜ 左ウインカーライト点滅は左に曲がる事を表します。

ホーンスイッチ

- ☞ メインスイッチを“ON”位置に回して、このスイッチを押すと、ホーンが鳴ります。

ガソリタンクキャップ

- メインキーをメインスイッチ鍵穴(OFF)に挿入して、左に向かってキーを回転させると(OPEN)、ガソリタンクキャップは自動的に浮いて開きます。
- ガソリン補給後、ガソリタンクキャップを右に向かって回転させて、少し押すと、ガソリタンクキャップを閉めることができます。



ガソリタンクキャップ

注意！！

- 給油時は、センタースタンを立てて、エンジンは必ず切ってください。火気厳禁です。
- 給油時は勢いよく入れると吹き返しを起して大変危険です。
- 給油時は入れすぎないようにして下さい。車両に悪影響を与える恐れがあります。
- 無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。

シートロック

- 解除方法： 1.シートロックキー穴にキーを差込み、左に回してロックを解除します。
2. メインスイッチを“ON”位置に回して、シートオープンスイッチ を押します。
- ロック方法：シートを押し下げて確実にロックして下さい。

注意！！

- シートをロックする前に、キーをトランクボックス内から取り出した事を確認して下さい。
- トランクボックス内に荷物を入れ過ぎてロック解除が困難な場合はキーで開けて下さい。

トランクボックス

- トランクボックスはシートの下にあります。
- トランクの最大積載量: 10kg。
- シートを下ろした後、確実にロックされているか確認して下さい。

- エンジン温度が高いので、熱の影響を受けやすい物は、トランク内に入れしないで下さい。
- トランク内に貴重品を入れしないで下さい。
- 濡れないように洗車前に重要物を取り出して下さい。

ヘルメットフック

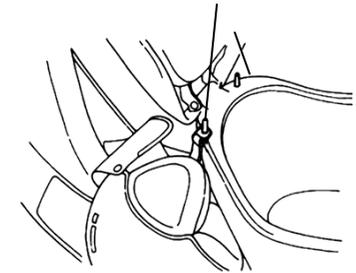
- シートを開け、フックに掛けてからシートを閉めて下さい。



注意！！

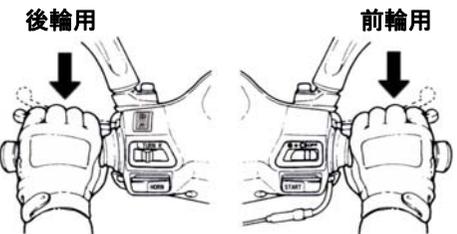
- ヘルメットを掛けたまま走行しないで下さい。車両を傷めたり、ヘルメットの機能低下にもつながります。

ヘルメットフック



ブレーキ

- 不必要な急ブレーキを避けて下さい。
- ブレーキを掛ける前に、スロットルをアイドル状態に戻して下さい。そうしないとエンジン出力の一部がブレーキ力と相殺され、ブレーキ効果が悪くなります。
- ブレーキは前後同時に使用して下さい。
- 雨の日は減速してゆっくり走り、早めにブレーキをかけて下さい。
- 長時間ブレーキを連続して使用すると、ブレーキが過熱して、ブレーキ効果が低くなります。

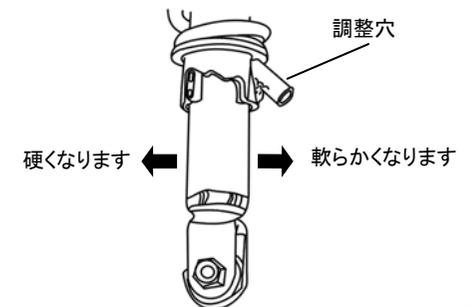


注意！！

- 前輪あるいは後輪ブレーキのみの操作は、不安定になり転倒しやすくなります。

リアショックアブソーバーの調整

- リアショックアブソーバーは、道路状況と荷重によって、柔らかさを調整できます。
- リアショックアブソーバーの調整は軟、中、硬の三段に分けられ、出荷時は中に調整されています。
 1. 工具を調整穴に挿入し、左に向かって回すと硬くなり、右に向かって回すと軟らかくなります。

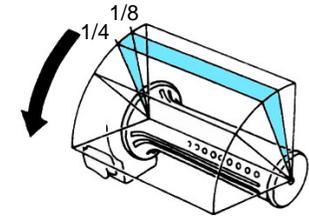
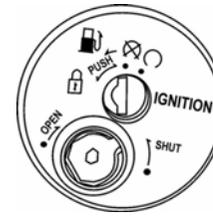


エンジン始動の要領と注意事項

⚠ 注意！！

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルとガソリンの量を確認して下さい。
- エンジン始動時は車両が飛び出さないように、後輪ブレーキを必ずかけてから始動して下さい。

1. メインスイッチを“ON”位置に回します。
2. アクセルを回さずに、ブレーキをかけた状態で、スタートボタンを押します。



⚠ 注意！！

- スターターモーターを3～5秒回してもエンジンが始動しない時は、アクセルを1/8～1/4ほど回してスタートボタンを押して下さい。
- スターターモーターの保護の為、15秒以上連続してモーターを回さないようにして下さい。
- スターターボタンを5秒以上押し続けても始動しない時は、10秒以上経ってから再始動して下さい。
- 長い間エンジンをかけていなかった車両や、ガソリンが空のまま給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。何度のスターターボタンを押す必要がありますが、アクセルは回さずに始動して下さい。
- エンジンが冷えている時はエンジンが暖まるまで数分かかります。
- 排気ガスには有害物質(CO)が含まれています。歓喜の良い場所で始動して下さい。

正しい走り方

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全確認をしてからスタートしましょう。
- スタート前にスタンドが収納されているか確認してからスタートしましょう。

スロットルバルブコントロール

- 加速：車両の速度が速くなります。ゆっくりと回しましょう。登り坂ではさらに回して力をつけましょう。
- 減速：車両の速度を下げます。すばやく戻しましょう。



停車とエンジン停止

1. 止まる地点に近づいたら
 - 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車両に注意し、徐々に左に寄りましょう。
 - スロットルを戻し、早めにブレーキをかけて下さい。
2. 完全に車両が止まったら
 - 方向指示器スイッチを元の位置に戻して、メインスイッチを“OFF”の位置に戻すと、エンジンが停止します。

⚠ 注意！！

- 事故と危険を避けるために、運転中メインスイッチを動かさないで下さい。

3. エンジンが完全に止まってから車両左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、メインスタンドで駐車して下さい。
 - 左手でハンドルを持ち、右手でグリップを握んで下さい。右足でメインスタンド左端部を踏み、車両を後方に引上げるような感じで、メインスタンドをかけて下さい。
4. 盗難防止のために、車両停止後、ハンドルをロックして、キーを必ず抜いて下さい。

⚠ 注意！！

- サイドスタンド駐車は平らでない路面あるいは臨時停車に使用するもので、安定性向上のために使用時ハンドルを左にいっぱいきった状態で使用して下さい。
- 運転後、マフラーは熱くなっています。バイクを止めるときは、やけどを避けるために通行人あるいは子どもが触らないところを選んで下さい。そして乾燥して燃えやすいもの（例：油類、雑草、紙類等）の近くに置かないで下さい。

日常の点検

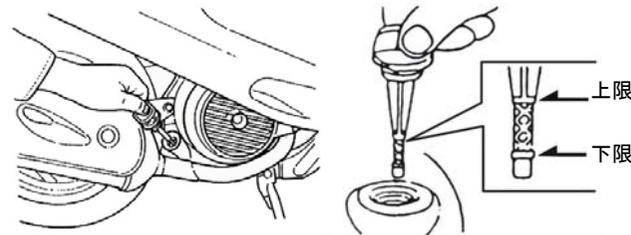
点検項目	点検ポイント	
エンジンオイル	エンジンオイル量は充分ですか？	
ガソリン	量は充分ありますか？（無鉛レギュラーガソリンに限る）	
ブレーキ	前輪	ブレーキの状況は？（ブレーキレバー遊び10～20mm）
	後輪	ブレーキの状況は？（ブレーキレバー遊び10～20mm）
タイヤ	前輪	空気圧は正常ですか？（標準 1.75kg/cm ² ）
	後輪	空気圧は正常ですか？（標準1人乗車時2.0kg/cm ² 2人乗車時2.5kg/cm ² ）
ハンドル	異常な振動がないか、あるいは動かすのが重くないですか？	
メーター、ライトバックミラー	正しく作動しますか？ライトは点灯しますか？後方確認できますか？	
車体各部の締付状態	ボルト、ナットが緩んでいませんか？	
異常があった箇所	以前のトラブルは直っていますか？	

⚠ 注意！！

- 日常検査で、もし何か問題が見つかった場合は、すぐに修理して下さい。必要な時は SYM 特約店に車両をお持ち込みいただき、修理を依頼して下さい。

エンジンオイルの点検と交換

- 平坦な地面で、メインスタンドを立て、エンジンを切った後2～3分後、オイルレベルゲージを取り出し、きれいに拭いた後、再度入れて計測して下さい。（回転はさせない）
- オイルレベルゲージを取り出し、エンジンオイル量がゲージの上限と下限の間にあるかどうか確認して下さい。
- エンジンオイル量が下限に近付いたとき、上限まで補充してください。
- エンジンオイルは **SAE 10W- 40 API SJ** 級以上の物をご使用下さい。低グレード・低品質オイルをご使用の場合はメーカー保証の対象になりません。ご注意ください。
- エンジンオイル容量：1.0リットル（一般交換時：0.8リットル。）

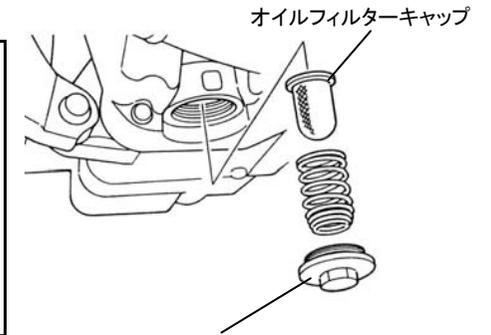


【エンジンオイルフィルターの清掃】

- オイルフィルターキャップを取外して、フィルターを取出します。
- ガソリン又はエアージェットで、ネットの不純物を清掃してから
- 取付けて下さい。
- エンジンオイルフィルターはエンジン右下にあります。

⚠ 注意！！

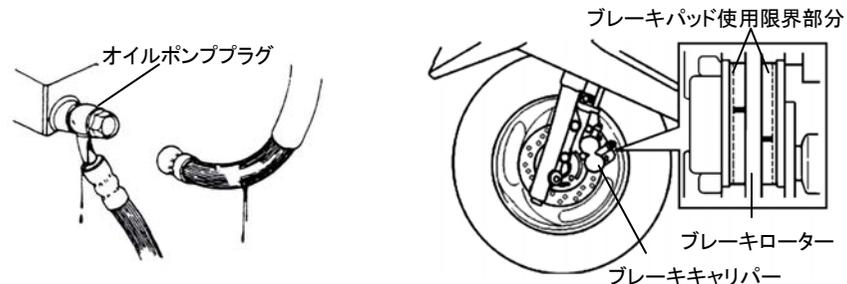
- 車両が傾斜しているか、あるいは停車してエンジンを切ったばかりの時、エンジンオイル量測定は不正確です。
- エンジンオイル交換と同時に、一緒にエンジンオイルフィルターを確認し、破損あるいは異物が詰まっているかどうか確かめ、もしあればすぐに交換してください。



エンジンオイルフィルター

ディスクブレーキの点検

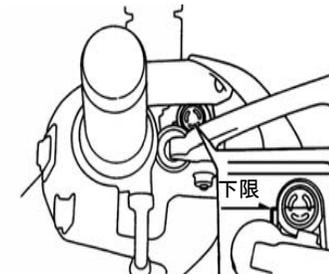
- 目視点検で漏れあるいは損傷がないかどうか、レンチのような工具を使って、接続場所が緩んでいないかどうか、ハンドルが左右に回転するか、あるいは運転中の振動、パイプ保護部以外にその他部品と接触・干渉の恐れがないかどうか確認して下さい。
- 万が一漏れあるいは損傷があれば、SYM 特約店にお持ち込みになり、修理を依頼して下さい。
- ブレーキ作動時、ブレーキパッドの磨耗を点検して下さい。ブレーキキャリパー後方から点検して、ブレーキパッド使用限界部分がブレーキローターに当たっている場合はブレーキパッドを交換しなければなりません。



- 平坦な地面で車両を立てて、油面が下限にあるかどうか点検します。(使用オイル:DOT 3)

⚠ 注意！！

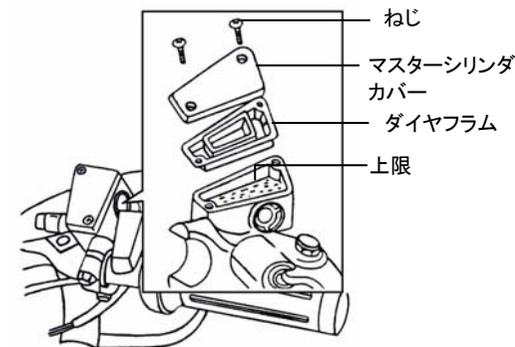
- 車両が傾いていると、正確なオイル量が測れません。
- 化学変化の恐れがあるので種類の違うオイルを混ぜて使わないで下さい。
- ブレーキオイルを補充する時、上限を超えないで下さい。塗装面を傷めるので、塗装部やプラスチックに付着させないように注意して下さい。



- ねじを緩め、ポンプキャップを取ります。
- 保存パイプ外周の雑物、汚れをふき取りますが、異物を保存パイプ内に落とさないでください。
- 膜片を取ります。
- ブレーキオイルを保存パイプ上限位置まで補充します。
- 膜片を取り付け、ポンプキャップを取り付けます。
- 膜片方向に注意して、異物が入らないようにして、確実にポンプのキャップを閉めます。

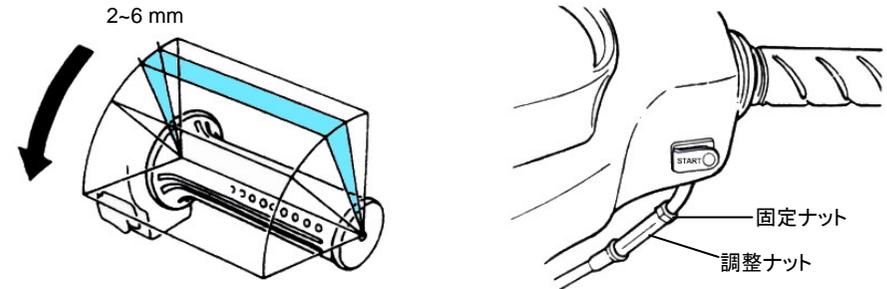
⚠ 注意！！

- ブレーキオイルを点検・補充するときは、エンジンを切った状態で行ってください。



スロットルバルブクリアランスの調整

- 2~6mm の遊びでクリアランスを調整して下さい。
- 調整時はまず固定ナットを緩めてから調整ナットを回して調整します。調整後は固定ナットを確実に締めて下さい。
- 調整完了後はスロットルの回転、ハンドルの左右の動きに異常が無いか、ケーブルが干渉していないかを確認して下さい。

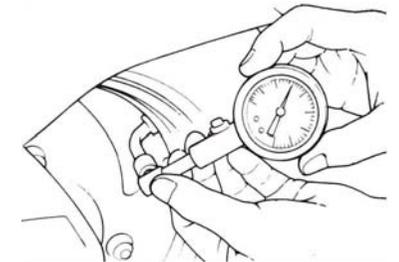
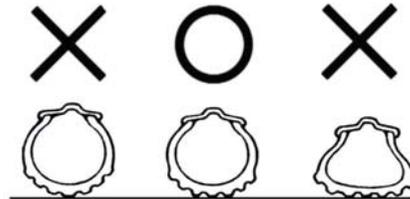


⚠ 注意！！

- 走行時のスピードコントロールに危険が無いように注意して調整して下さい。

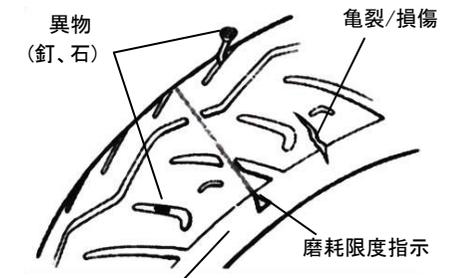
タイヤの点検

- エンジンを止めてからタイヤの点検や空気圧の補充を行なって下さい。
- タイヤの接地面は形状が異常な時は空気圧ゲージで点検の上、規定圧まで補充して下さい。
- タイヤの空気圧はタイヤが冷えている状態でエアゲージにより点検して下さい。



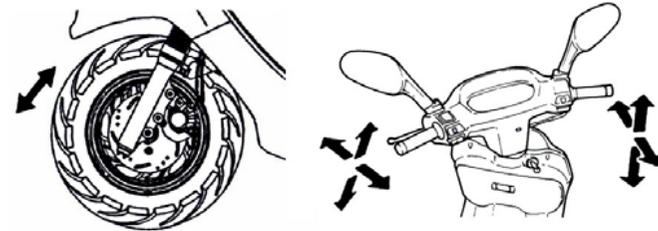
標準タイヤ空気圧スペック参照

- 目視でタイヤの接地面あるいは側面に、釘あるいは小さな石が刺さっていないか、あるいはタイヤの溝に挟まっていないか点検して下さい。
- “磨耗限度指示”に従って、タイヤ溝の深さを点検して下さい。
- “磨耗限度指示”が出てきたら、すぐにタイヤを交換してください。



ステアリングハンドル/ショックアブソーバーの点検

- エンジン进行して、キーを抜いてから点検を行って下さい。
- サスペンションに損傷が無い目視にて確認をして下さい。
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりがないか点検して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締まり具合を点検して下さい。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らしてみ、ガタや異常な抵抗、一方に引っ張られたりしないか点検をして下さい。
- 万一異常があった場合は SYM 特約店で点検修理をお受けになして下さい。



バッテリーの点検とメンテナンス

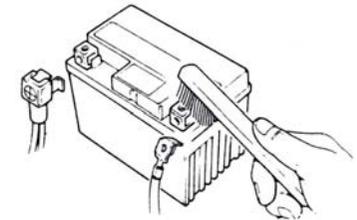
- この車両にはメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万一異常があった場合は SYM 特約店にご相談下さい。
- バッテリーを取外し、ターミナルの汚れ、腐食を清掃して下さい。
- メインスイッチを“OFF”にして、先にマイナス側のケーブルを外し、次にプラス側を外します。

⚠ 注意！！

- 密閉バッテリーなので、液口キャップを外さないでください。
- 長期に使用しない時、バッテリーに自然放電させないように、車からバッテリーを外して完全充電後、風通しがよくて、暗いところに置いてください。もし車に保存するときは、マイナス極端子を外してください。
- バッテリーを交換するとき、必ず密閉式メンテナンス免除 (MF) バッテリーを使用しなければなりません。
- 電子部品の焼き付きを防ぐために、エンジン始動中バッテリープラスマイナス極の端子線を取り外さないでください。

⚠ 注意！！

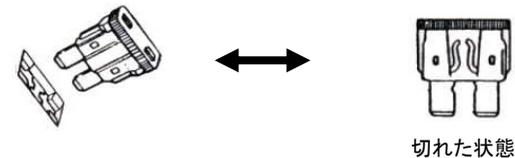
- 端子が腐蝕して白い粉が付着している時、温水でふき取ってください。
- 端子に明らかな腐食があるとき、外して電極線用ブラシでこするか、あるいは紙やすりでこすってください。
- 清掃後電極線をつなぎ、端子に薄くグリースを塗ります。
- バッテリーを取り付ける時、バッテリー取出要領の反対の順序で取り付けます。



ヒューズの点検と交換

メインスイッチを“OFF”をしてからヒューズを確認して下さい。ヒューズが切れている場合は同じアンペア数の新しいヒューズに取替えて下さい。指定アンペア数以上のヒューズや銅線、鉄線を代わりに使用することは配線の過熱や焼損の原因になりますので、絶対にしないで下さい。電気回路システムを破損する恐れがあります。

- トランクボックスを外すと、テールライトの近くにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開けて、ヒューズを引き抜いて下さい。そしてヒューズが切れていないか確認して下さい。
- ヒューズを交換する時はコネクタにしっかりと差し込んで下さい。接触が緩いと、接触不良や損傷を与える原因になります。
- ライト球のような電気部品を交換する時は規格に合った部品を使用して下さい。交換された部品が規格に合っていないと、ヒューズ切れやバッテリー上がりを起こす恐れがあります。
- 車両を洗車する時は、ヒューズボックス内に水が掛からないように注意して下さい。
- ヒューズを替えてもすぐに切れてしまったり、原因が不明で切れてしまう場合はお買い求めのSYM 特約店に車両をお持ち込みいただき、点検をしてもらって下さい。



ヘッドライト及びテールライトの点検

- エンジンを始動してヘッドライトとテールライトが点灯しているか確認して下さい。
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい。
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。

ブレーキライトの点検

- メインスイッチを“ON”の位置に回して、それぞれ前、後輪ブレーキレバーを握って、ブレーキランプが点灯するか確認して下さい。
- ブレーキランプレズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい。

方向指示器とホーンの点検

- メインスイッチを“ON”の位置に回します。
- 方向指示器スイッチを作動させて前後左右のライトの点滅を確認して下さい。
- 方向指示器のレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい。
- ホーンスイッチを押してホーンが鳴るか確認して下さい。

⚠ 注意！！

- 方向指示器ライト球は規定の規格バルブをご使用下さい。異なった規格のバルブを使用すると、正常な作動ができない恐れがあります。
- 後続車に注意を促すために方向転換や進路変更時は方向指示器を点灯させて合図して下さい。
- 方向指示器は使用後直ちにボタンを押して解除して下さい。点灯させたままですと他の車両の迷惑になり、大変危険です。
- 電装系の改造は負荷が大きいかかりショートの原因にもなり、車両焼失の恐れもあります。絶対にしないで下さい。

ガソリン漏れの点検

- ガソリンタンク、給油口キャップ、ガソリンホース、インジェクターの漏れを点検して下さい。

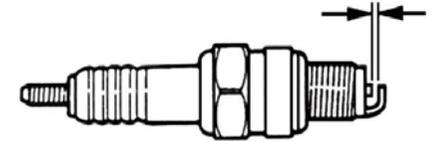
車体各部の給脂状態の点検

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か確認して下さい。
(例:メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーなどのピボット部等)

点火プラグの点検

0.7~0.8 mm

- プラグキャップを外し、プラグを取外します。
- 電極の汚れ、カーボンの付着を確認して下さい。
- カーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンで洗浄したのち、布でよく拭き完全に乾かして下さい。
- 電極隙間を点検してギャップを0.6~0.7mmに調整して下さい。(ギャップツールを使用)
- スパークプラグは手で締めした後、さらにレンチで1/2~3/4回転締め付けて下さい。



警告:エンジンを切ったばかりの時、温度が高いため、やけどに気を付けてください！
※メーカー推奨規格のスパークプラグをご使用して下さい。(スペック表参照)

エアクリーナーの点検

エアクリーナーが汚れていると出力減少や燃費悪化の原因となります。

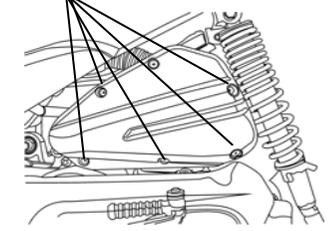
〈取外し方法〉

- エアクリーナーカバーから取付けスクリューを外して下さい。
- カバーを取外し、エレメントを取出して下さい。
- エレメントを清掃して下さい。(メンテナンススケジュール参照)

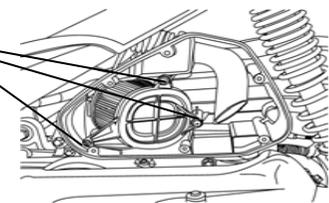
〈取付け方法〉

- 取外しと反対の方法で操作します。

エアクリーナースクリュー



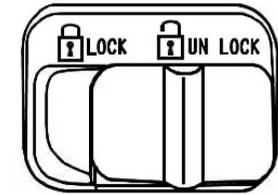
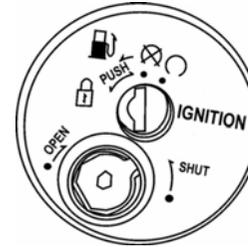
固定ネジ



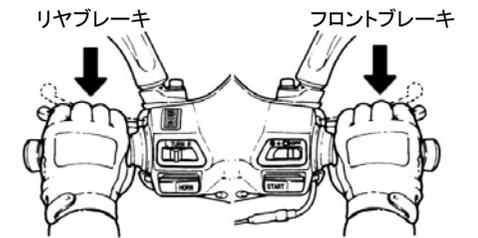
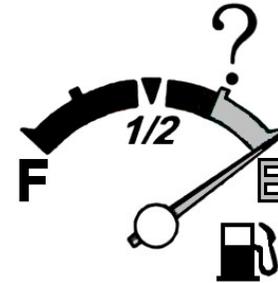
⚠ 注意！！

- エアクリーナーが正しく装着されていないとゴミや汚れを直接吸ってシリンダーの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えますので確実に取付けて下さい。
- 洗車する時にエアクリーナーが濡れるとエンジンが始動できなくなる恐れがあります。
- エアクリーナー後方にブリーザードレンがありますので、1000km毎に堆積物を排出して下さい。

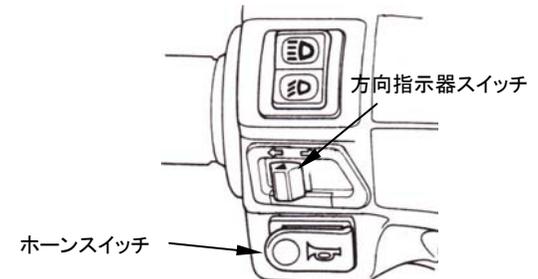
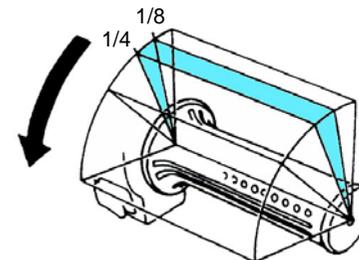
エンジンが始動しないとき



- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1. メインスイッチは “ON” の位置にありますか？ | 2. エンジンコントロールスイッチは “ OFF ” の位置にありますか？ |
|-----------------------------|---------------------------------------|



- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 3. ガソリン残量は充分ですか？ | 4. セルボタンを押す時に前又は後ブレーキをかけていますか？ |
|------------------|--------------------------------|



- | | |
|----------------------------------|---|
| 5. セルボタンを押しながら、スロットルを回し過ぎていませんか？ | 6. メインスイッチを “ON” の位置にしてホーンスイッチを押して下さい。ホーンが鳴らない場合はヒューズが切れているかもしれません。 |
|----------------------------------|---|

排気ガス中の環境汚染物質：ガソリンの不完全燃焼はCOとHCを発生される大きな要因で、ガソリンの浪費にもつながります。車両の性能維持と排気ガスの減少、ガソリンの節約のためにも定期的な点検とメンテナンスが重要です。

一、エアクリナーの清掃と交換：

エアクリナーはシリンダーに吸い込まれる空気のコホリや汚染物質をろ過する役割をしています。汚れていては空気がスムーズに流れません。通気性が悪いと空気が減り、混合気が濃くなり不完全燃焼してパワーダウンや燃費の悪化、排出ガス濃度の上昇をおこします。こまめに清掃し、清掃しても通気性が確保できない場合は交換して下さい。また交換する際は必ずSYM純正エアクリナーを使用して下さい。純正以外では適正な性能を維持できない恐れがあります。

二、点火プラグの清掃、調整と交換：

点火プラグの汚れを清掃し、ギャップを調整します。電極に摩耗や異常がある時は交換して下さい。不良なプラグは不完全燃焼や燃費の悪化、パワーダウンを招きます。

三、バルブクリアランスの調整：

バルブシートの摩耗、密閉不良、バルブクリアランスの調整不良は不完全燃焼の原因となります。定期的な点検調整をして、摩耗している場合は交換して下さい。また、バルブクリアランスの調整は正確にされていなければなりません。

四、オイル交換時は上限を超えない：

オイル量が過剰の場合、燃焼室までオイルが上がり炭素が溜まります。混合気の燃焼に影響し、パワーダウンや燃費の悪化を招きます。

五、点火時期は確実に合わせて下さい：

強力な火花で完全燃焼するとエンジンパワーは大きくなり、ガソリンの節約、排出ガスの減少につながります。

六、エンジンの劣化や摩耗はガソリンの浪費につながります。部品の点検をして下さい。

七、燃料及び点火システムを常に良好な状態に維持することは、ガソリンの節約と環境汚染防止につながります。

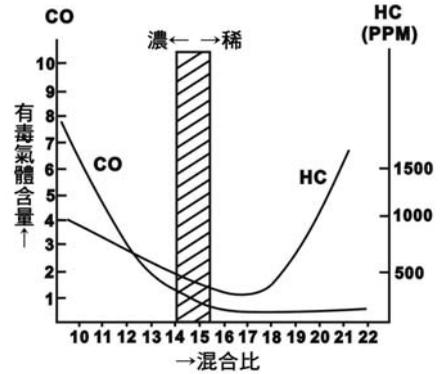
八、ガソリンの節約と環境汚染防止の為に以下の事項に配慮して下さい。

- (1) 車両は暖気運転をしてから走行しましょう。
- (2) 走行時はスロットルバルブを軽く握り、一定の速度を保ち必要以上にスロットルをふかさないで下さい。
- (3) 停車、駐車時は早めに減速し、急ブレーキは避けましょう。

九、メンテナンス、調整、点検を受けた車両は最高の状態になっています。

CO	HC	原因
高	正常	ガソリンと空気の混合比が濃い
正常	高	1. 点火システム不良： <ul style="list-style-type: none"> • 点火タイミングの不良 • プラグの汚れ、ギャップの不良 • 点火コイルの不良 2. エキゾーストバルブの摩耗 3. シリンダーの摩耗
低	高	1. 混合気が濃すぎ、薄すぎで点火不良 2. エア漏れ： <ul style="list-style-type: none"> • 負圧チューブ漏れ • インレットパイプ漏れ • 点火プラグガスケット漏れ • 燃料噴射システム設定不良
高	高	1. エアクリーナーの汚れ 2. インジェクター不良： <ul style="list-style-type: none"> • 混合気が濃すぎる • 燃料噴射システム設定不良 3. PCVバルブの緩み

排気ガス煙異常の原因
1. エンジンオイルの過剰 2. オイルポンプの異常 3. 粗悪オイル又は低品質オイルの使用 4. エンジンの老化、摩耗 5. 長時間の低速使用(時速 20~30Km/h 以下) 6. マフラー内のカーボン堆積による汚れ



項目	チェック項目	メンテナンス キロメートル	300KM毎	1000KM毎	3000KM毎	6000KM毎	12000KM毎	備考
		メンテナンス 期間	新車時	1ヶ月毎	3ヶ月毎	6ヶ月毎	1年毎	
1	エアクリーナーエレメント(備考)		I	C		R		
2	オイルフィルター(スクリーン)		C			C		
3	エンジンオイル		R	I	3000KM毎交換			
4	タイヤ空気圧		I	I				
5	バッテリー		I	I				
6	スパークプラグ		I		I		R	
7	キャブレター(アイドリングスピード)		I			I		
8	ステアリングベアリング、ハンドル		I		I			
9	トランスミッションの漏れチェック		I	I				
10	クランクケースの漏れチェック		I	I				
11	トランスミッションオイル		R	5000KM毎交換(5ヶ月)				
12	ドライブベルト/ ローラー					I	R	
13	ガソリンタンクスイッチ、ライン		I		I			
14	スロットルバルブ操作、ケーブル		I	I				
15	エンジンボルト、ナット		I		I			
16	シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン					I		
17	排気システム/クリーニングカーボン					I		
18	カムチェーン/イグニッションタイミング		I		I			
19	バルブクリアランス		I			I		
20	ショックアブソーバー		I			I		
21	前/後サスペンション		I			I		
22	メイン/サイドスタンド		I			I/L		
23	クランクケース ブローバイシステム (PCV)		I		I			
24	クラッチウエイト					I		
25	ブレーキメカニズム/ブレーキ パッド		I	I				
26	各コンポーネントボルト/ナット		I	I				

☆ 上記メンテナンススケジュールは 1000km 毎を参照ベースとして立てられています。

※ 車両を適正な状態に保つ為にSYM正規代理店または取扱店に持ち込み定期的チェックと調整を受けて下さい。

コード:I ~ 点検、清掃、調整 R ~ 交換 C ~ 清掃 (必要に応じて交換) L ~ 給油

備考:1. ほこりっぽい道、環境汚染のひどい地区での走行車両はエアクリーナーエレメントの洗浄、取替えは、より頻繁にしてください。

2. 頻繁に高速走行したり、総走行距離数が高い場合はメンテナンスをより頻繁にしてください。

【備考欄のノートは適用モデルを表記しています】

項 目	NEW FIGHTER 150 ZR
	HY15V1
車長/車幅/車高	1,935 mm / 700 mm / 1,110 mm
車重/ホイールベース/シート高	126 kg / 1,345 mm / 790 mm
最小回転半径	2.0 m
前輪ブレーキ	ディスクブレーキ (ø226mm)
後輪ブレーキ	ディスクブレーキ (ø190mm)
ショックアブソーバー (前/後)	筒式複動式/(リアショックアブソーバー三段調整可能式)
タイヤサイズ	前輪 110/80-12 61L / 後輪 120/70-12 58P
タイヤ気圧(1人騎乗)	前輪 1.75 kg/cm ² / 後輪 2.0 kg/cm ²
タイヤ気圧(2人乗り)	前輪 1.75 kg/cm ² / 後輪 2.5 kg/cm ²
ヘッドライト (ハイビーム、ロービ)	12V 35W / 35W ×2
テール/ナンバー/ブレーキランプ	LED /12V 5W×1/LED
前 / 後方向指示器	12V 10W ×4
計器(方向指示ランプ)	12V 1W ×2
(計器照明ランプ)	LED
(ハイビーム指示ランプ)	LED
ヒューズ	25A×1/15A×2/10A×1
バッテリー型式/容量	TTZ10S/(メンテナンスフリーバッテリー)/12V 8.6Ah
点火プラグ (標準形式)	CR8E
エンジン型式	4サイクル/4バルブ/セラミックコートシリンダー/空冷エンジン
シリンダー内径×サイクル	Ø59 mm×54.8 mm
排気量/ 圧縮比	149.8 cc / 10.8 : 1
最大馬力	13.5 ps / 8,000 rpm
最大トルク	1.26 kg-m / 6,000
エンジン回転数 (アイドルスピード)	1,800 ±100 rpm
登坂能力	28°以上
点火方式	トランジスター式点火
始動方式	セル
ガソリンタンク容量	5.5L (無鉛レギュラーガソリン)
エンジン潤滑油容量	1.0L (交換時 0.8L)
ギアボックス油容量	110 cc. (交換時 100 cc.)



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリーやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。